

令和4年度（2022年度）第5回南大沢中学校区地域づくり推進会議議事概要

日 時	令和5年（2023年）1月21日（土） 9:30～12:00
場 所	南大沢中学校 3階家庭科室
出席者	参加者：飯田、磯田、加笠、木村、久保田、佐藤（駿）佐藤（昌）、高津、高橋、田中（茂）、廣瀬、廣田、福澤、宮武、吉村 はちまるサポート由木東：江成 第一層生活支援コーディネーター：今泉 八王子地域 PAL-ETTE：黒田、矢部 未来デザイン室：野田、橋本 （株）エックス都市研究所：松本、小市、田中
見学者	都市総務課：三井
配布資料	第5回南大沢中学校区地域づくり推進会議資料 資料1 アクションプラン思案シート 資料2 南大沢中学校区地域づくり推進会議参加者 活動一覧 前回のワークのまとめ 参加者作成資料

1 開会

未来デザイン室より挨拶。

2 議題

（1）前回の振り返り

資料をもとに、第4回南大沢中学校区地域づくり推進会議（以下「推進会議」という。）での議論の振り返りを行った。

（2）アクションプランの柱を考えよう

会議資料をもとに、今後のスケジュール、第5回の取り組み方について確認した。その後、参加者の有志メンバーが検討した事前ワークについて発表し、全体でグループワークを行った。

1）有志メンバーによる事前ワークの発表

- ・ 地域の現状として、新型コロナウイルス感染症の影響により祭りやイベントが中止になったり、少子化により子ども会が解散したりと、子どもが地域の人と関わる機会が減っており、次世代への地域活動の継承が危機的な状況である。
- ・ 課題として、多世代の地域参加の場となる祭りを再構築すること、多世代の人や団体が繋がる取組をすること、南大沢の未来の人材育成が必要だという結論になった。
- ・ 「楽しくつながる」をキーワードに、推進会議の参加者の強みである「つながり」を活かして、住民主体の新しいイベントをアクションプランの柱として提案したい。
- ・ 取組名を「(仮称) 南大沢アットホームフェスタ」とし、推進会議の参加者に加え、他団体や地域の商店、学生などの有志メンバーと協力して、秋に学校または中郷公園での実施を目指したい。

- ・「(仮称)南大沢アットホームフェスタ」では、5つのカテゴリで取組を実施したいと考えている。

① 防災

消防団の実演やこども食堂の取組として防災食の配布、地域防災協議会と協力して取組を行う。

② 飲食や物販

地域商店や草むら、どんぐり広場、学校や地域日本語教室などに出店してもらう。

③ 遊び・体験コーナー

アート団体や放課後子ども教室、スポーツクラブ、児童館などに参加してもらい、体験できるコーナーを作ってもらう。

④ コミュニティづくり

動物愛護ネットワークやヤマザキ学園、視覚障がい者協議会、優しい日本語によるガイドなどを通して、体験してもらい、地域参加への入口にする。

⑤ エンターテイメント

団体による演武・演舞発表、ダンスイベント、マジック、民族衣装ショーなど楽しんでもらう。

これらの内容のほとんどが、推進会議参加者のつながりを活かして声を掛けたらすぐ実践できそうなものを挙げている。

- ・懸念されている人材と資金の問題については、有志でやりたい人やできる団体が集まって実施することが良いと思っており、資金面については、イベントのプログラムに広告を載せる代わりに寄付を募ることでクリアしていきたい。
- ・情報発信は、専用のSNSを作ったり、由木マルシェや南大沢町会のSNSを活用したい。
- ・地域活性化イベントに利用できる助成金や補助金があれば、市の方からも紹介していただきたい。
- ・これからグループワークをするうえでみなさんの参考になればと思うのと、もし賛同いただけるのであれば、具体的な準備に繋げていきたい。

2) グループワーク

今回の進行役（ファシリテーター）及び板書係をグループごとに選出した。

	進行役（ファシリテーター）	板書係
Aグループ	飯田氏	高橋氏
Bグループ	佐藤（駿）氏	宮武氏、福澤氏

続いて、アクションプランの柱について意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

① Aグループ 主な意見内容

- ・前回から“繋がる”というキーワードが出ているので、まずは個々が繋がっているものを繋げていくことで、地域を盛り上げていくきっかけになれば良いと思う。まずイベントをきっかけに人と人、団体同士が横に繋がり、次の世代へと活動を繋げていくこと大切。それを踏まえると、子育てしやすい街という視点がとても大事になる。

- ・今ある団体を繋ぎ、さらに外からも人が来てもらえるようにするため、まずはイベントを実施してはどうか。主催は推進会議参加者と参加者が繋がっている方をお願いするとともに、小・中学生にも協力してもらい、実施内容を具体的に決めていけば良いと思う。場所は中郷公園や地域づくりが中学校区単位なので中学校で実施するのも良いのではないかな。
- ・将来のことを考える時に、現状の把握として統計情報は見ておく必要があると思う。
- ・コロナでイベントが中止になり、人と出会う機会が減っていることから、“人と繋がれる街”をキーワードと考えた。前回、リタイアされた方が人と繋がれる場がなく家に籠りがちという話があったが、参加しやすいイベント・取組があれば外に出やすくなると思う。「孤独にならない」ということもキーワードになるのではないかな。
- ・地域の活動を見ていると、企業との繋がりが少ないイメージがある。地域には全薬工業などの企業があるため、そうした企業を巻き込んでいくと、例えば地域出身の大学生がそこに就職し、家庭を持てば人口も増えていく。地域で育った子ども達が、地域に根付けるような活動ができればと思う。ただし、住民が直接企業とやりとりするのは厳しいので、市にも協力していただきたい。
⇒全薬工業は緑地を開放し、防災用トイレも設置しており、地域に何かできればとおっしゃっているので、連携できると良い。
- ・今ある様々な活動をひとつのイベントに組み合わせられないか、と思っている。推進会議に参加して初めて知った活動もあり、魅力的な活動があるのに知らないものも多い。青少年育成、高齢者活動、地域振興、防災を楽しみの中で繋がれると良い。一番困っていることは地域全体を取りまとめる組織や仕組みがないことであり、企業側も地域と連携したくても相談先がない状況にある。
⇒コロナ蔓延で祭りができない期間が長期化したことから、若い方や地域に戻ってきた方もいて、祭りを知らない人が多くなっていると思うので、中郷公園あるいは懐かしの中学校で開催するチャンスではないか、コロナのピンチをチャンスに変える。町会で祭りを支えることが人的に難しいようであれば、推進会議が主催となり試行してみるのも良い。そのほうが色々な繋がりにっていくのではないかな。資金面も将来は春日井市のように企業協賛にするなどを考えてみてはどうか。
⇒地域の思い入れは大事である。中郷公園でも良いが三丁目の商店街も含めて同時多発的に開催して、最後は盆踊りで、という展開もある。
⇒スタンプラリーなど繋ぐ仕組があっても楽しそうである。環境・ゴミ問題をイベントに組み込み、イベント前後でクリーン作戦を実施してみても良い。
- ・色々な思いを持って活動している市民団体が一堂に集まってイベントをすることで、団体間の繋がりにもなり、何か地域活動に参加したいと思っている人も、多くの人目に付きやすい場所でイベントを開催することで、自然と立ち寄り繋がることできる。SNSやチラシは情報過多でその場で判断せず流してしまうことが多いが、リアルな場面では興味のある人を取り逃さない。まずはきっかけづくりをして、できるだけ色々な人が参加できるようなハードルを下げた無料で誰でも気軽に立ち寄れる、繋がるきっかけが作れるイベントを起こすことに意味があると思う。
- ・地域活性化のために必要なものとしてコミュニケーションツールがあり、祭りのようなリアルなものやデジタルなものがある。普段、仕事をしている時でもコミュニケーションが取れるようなデジタルなものが必要だが、そのためには費用がかかるため、このフィールドでテストマーケティングをやってくれるようなところがあると良いと思う。例えば国のものづくり補助金などを活用して、

地域にフィードバックする方法もある。

⇒南大沢町会の LINE があるのが、あれは素晴らしい。

⇒これまで情報を一括して流せるところがなかったので、リアルと両方あった方が良い。

- ・みなさんの意見を一旦まとめると4つのテーマが出てきた。①祭り、イベントでみな繋がる（統計情報、過去の活動などを今一度振り返り、整理する）、②孤独にならない、孤独にしない（つながるというキーワードで、祭りまとめるのも良い）、③企業（こういった活動の中で企業は忘れられがちだが、将来的な資金調達）、④デジタルで繋がる。

⇒繋がるには、人だけでなく活動を繋げるということもある。また、未来に繋げるという意味もある。

⇒今困っていることから始めてみると良い。まず活動が繋がっていないので、一箇所に集まってみんな何かをすることから始めてみては。新しいことをはじめると、負荷が大きいので今ある活動を繋げていくような取組が良い。

- ・祭りを運用母体として、新たに参加したい人もそこに入り自分たちのやりたいことができる、開かれた、制約をあまり持たないようなゆるい感じで全体を取りまとめられれば良い。
- ・川口地域では、アクションプランの柱を「地域のプラットフォームづくり」として、そこにマルシェの開催とコミュニティカレンダーづくりがアクションとして入っている。

⇒「地域のプラットフォームづくり」はスローガンのようなもので、我々としてはその下に連合体、地域全体をとりまとめる実質的な組織が欲しい。そういう組織がないと、多様な組織や団体を動かせないし、説得できない。

⇒推進会議の到達点は団体同士を繋ぎ、地域の核・中心となって、課題解決に繋がる仕組づくりを目標に始めている。自分たちでどのような仕組みができれば色々な意見が聞けるのか、会議を重ねながら自分たちが動きやすい仕組みを作っていけると良い。何かあれば市もバックアップで入っている。

- ・「繋がる」が大きなテーマとしてあって、人と人を繋げる、活動がバラバラ、人を育てる、繋がるための方法がキーワードになるか。縦軸とっている時間を繋ぐ、人づくりというのも柱として面白いと思う。
- ・集まる場を作り、継続的に活動できることをやろうというのがアクションプランになると思う。祭りを立ち上げて、運用するための組織を創る。
- ・繋がる場としては、リアルとバーチャルの2つがある。母体となる組織をつくる仕組があって、祭りはアクションで仕掛けとなる。参加する人が多ければ恒常的な人づくりに繋がる。これらが循環していくイメージだと思う。

② Bグループ 主な意見内容

- ・キーワードとして、祭りや和太鼓といった八王子市の伝統芸能に着目した。理由としては、八王子市の伝統芸能を取り入れた祭りを開催することで、八王子市の魅力を発信し、市民だけでなく市外からも多くの人に訪れてほしいと思ったからである。また、祭りを通して地域団体・自治体・大学・企業が相互にコミュニケーションをとることで活発化され、連携が深まっていくと思う。そして、最終的に「認め合う優しい街」が実現できると思った。
- ・年間を通して子ども・高齢者の見守りなど含めた、地域の交流、イベントができる場所があると良

い。地域住民同士の交流を通じてもっと繋がりを強くしていきたい。

- ・ハンデを持った方や、言語の問題等でコミュニケーションがうまく取れない方も含めた、見守りの風土を地域でつくれたら良い。みんなで作ってみんなで楽しむことがあっても良いと思う。対象は、やってみたい人ならば誰でも、場所や機会についてはどこでも良いと思うが、大平公園の芝生広場やひねもす亭、清水入り緑地などを利用したら良いのではないかな。
- ・周辺の遊歩道などが自由に利用できれば、春の花見の時期には休憩スペースを設けて、お茶とお菓子が置いてあるなど、四季に応じた年間の取組ができると良い。
- ・地域でひとつになるには、祭りなどがあると良いと思うが、天候に左右されたり、準備が大変だったりするため、もう少し身近に気軽に参加できるものが良いと考える。イメージとしては、大人版クリーンデーを「(仮称) 南大沢アットホームフェスタ」の開催まで、継続的に月 1 回程度開催する。掃除ならば、地域の人にも活動が見えやすいのではないかな。
- ・キーワードは多世代・多様な人が参加し、継続できる体制を望みたい。アクションプランの柱の案としては、ソフト面とハード面の取組を融合したい。例えば情報発信の場合、高齢者はスマホで多くの情報をもらっても対応に困るため、多世代に対応した情報発信の仕方があると思う。人材面については、特定の組織が担うとなれば後継者の問題があるため、やれる人がやれば良いと思うが、地域の良さを発信して人材の確保をしていくと良いのではないかな。そのほか、優しい街づくりに必要な人・モノの確保も重要であり、場所としては、地域内の公園や広場、遊歩道、公共施設や市民センターを活用できれば良いと思う。
- ・町会では、町会の LINE を周知するため、初詣の際にチラシを配布した。これによって登録者数が増えた。さらに周知をするため、現在東京都の助成金を活用して、チラシやポスターを作成しようとしている。町会の担い手が減っており、役員も高齢化して辞める人が増え、子ども会は少子化の影響により、今年度で終了している。住民同士の繋がりを保つために町会として努力しており、町会の加入世帯を増やすため、地域の店舗に協力してもらい、町会 LINE に登録している地域住民は 10%OFF で買い物ができるといったことを、実験的に行っている。
- ・祭りを開催するのは良いと思う。大平公園での祭りも難しい状況になっており、新しく組織を作らないとやっていけないのではないかな。現状では、地域住民が 1 年交代で役割を担っているため、長く関わる人をメインとしていかないと継続しない。
- ・話合いのなかで、「多様性」「多世代」「イベント」というキーワードが出てきたが、これらが全部入ったプランを有志メンバーで提案した。できる人ができることをやれば、そんなにハードルは高くなく、お金もかけずにできる提案である。有志メンバーで事前ワークした際、地域の人に共感してもらうためには、数値的なものを入れた柱を提案した方が良いという話が挙がった。例えば「南大沢中学校のクラスを 3 クラスにするために私たちは頑張ります」といったことである。
⇒クラス数を目標にすると出生数に関わってくるため、例としては良いがいきなりではないかな。
⇒40 年後の将来のありたい姿・最終目標として、それに向けて一歩ずつやっていけば良いのではないかな。
- ・清水入り緑地には在来種だけで日本の自然がそのまま残っていたり、珍しい鳥もいたり、良いところがたくさんあるため、街の良さを知ってもらいみんなが楽しめる行事ができると良いと思う。
⇒地域には様々な知識をもつ人が多くいるのだが、どうやって掘り起こすか。人材バンクみたいなことができれば良いのではないかな。

- ・ 世代で出てくるキーワードが分かれている。シニアは「普段のこと」「身近なこと」「いつも」というキーワードがすごく多かった。現役を退いて暮らしているから、日頃の地域の様子が見えているのかと思う。若い世代からは「多世代」「イベント」というキーワードが多かった。共通していることは、「公園」である。特にシニアから新型コロナ感染症について発言があったが、自治会など様々な組織に所属していて、活動ができなかったからだと思う。(第一層生活支援コーディネーター)
⇒高齢者いきいきサロンでは、対策できることを行った上で定期的な行事を開催している。
⇒日本語教室も同じで、外出制限でコミュニケーションをとる機会が減り、心を病めた外国人が帰国したり、自殺したりしている。できるだけ早く日常を取り戻そうと、対策をしつつなるべく小さなイベントを実施している。
- ・ 子供と高齢者は、日中も地域で活動しているが、現役世代は仕事などで地域に関わる時間が少ないことがすごく大きなポイントである。現状の組織は高齢化しており、うまくいかなくなってしまう中で、やり方を変えながらも引き継いでいかなければならない。子どもの約4倍が高齢者の人口であることなども踏まえ、やりたいことと現実をうまく噛み合わせる事が、話し合いのポイントとなる。(第一層生活支援コーディネーター)
⇒高齢者は体力では若者に敵わないが、人数はたくさんいる。3人で若者1人分の仕事をこなせば体力的な問題はクリアできるし、経験値などは若者の以上のものを持っていると思う。うまく活かせばやりがいにも通じることから、そのような視点があっても良いのかもしれない。
- ・ 第1世代は、ニュータウンということもあって地縁者ということではなく、全国各地から集まっているため、価値観が異なる。
⇒南大沢は地元ではないが、この地域に期待感を持って住民になった。2040年を考えた時、南大沢を第2の故郷として選んでもらいたい。そのため、子どもが育つのに良い環境だとか、素敵な高齢者がたくさんいると感じてもらえるようなまちにしていきたい。「シニアが暮らしやすい街＝子供が育てやすい環境」だと思う。
⇒弱者を見守れるような風土作りがある地域にしたいのであれば、提案したイベント内容も変えていくところも必要だと思う。賑やかな祭りをやってもだめだと思った。
- ・ 繋がりを作ってみんなをまとめるのが柱。
- ・ 前回、まとめる組織を立ち上げることが先か、地域を巻き込むイベントを開催することが先か、という議論になったが、まずは行動した方が良い。イベントは定期的でも1年に1度でも良いが、何かをすることによって、有志が集まる。そのあとに街をまとめる組織がイベントをするきっかけになったら良い。

③ アクションプラン柱(案)の決定

各チームで話し合った結果を発表し、アクションプラン柱(案)を決定した。

1. 新しいまとめ役をつくる
2. 仕掛け(イベント)をつくる
3. 人づくり

③ 決定した柱（案）に基づく具体的な取組の検討

決定したアクションプラン柱（案）を基に、具体的な取組の検討を行った。主な意見内容は以下のとおり。

（主な意見内容）

- ・ 新たな仲間を募るには、活動の情報発信が必要ではないか。
 - ⇒情報発信は、②仕掛け（イベント）をつくるになるか。
 - ⇒募る対象者は、南大沢の住民になるか。（エックス都市研究所）
 - ⇒そうなると思う。やりたい人なら歓迎する。
 - ⇒例えば、モデル地区では、取組ごとに部会を作って取り組んでいる。①新しいまとめ役をつくるに、参加者を募るための情報発信を盛り込んでも良いのではないか。（未来デザイン室）
- ・ ①組織をつくるについて、オフィシャルでないにしても、例えば、町会、連絡協議会、自治会、管理組合など既存の組織が集まって相談しないと統一性が出てこないのではないか。
 - ⇒推進会議参加者の繋がりを生かした、スモールスタートにしてはどうか。
 - ⇒具体的に取組を進めるとなると、これまで参加していなかった方々を呼ばないといけないのではないか。
 - ⇒具体的なアクションとしては「声を掛ける」ではないか。
 - ⇒理念に共感してくれる人は仲間になれば良いが、様々な団体が参加して会議を開くことが目標ではない。人の集め方はそこに気を付けて、目標のために必要になれば参加してもらえば良い。その参加も強制ではない。
 - ⇒スモールスタートのコアになるのは、推進会議ということで良いか。（エックス都市研究所）
 - ⇒良い。スモールスタートにして、何をやるか明確にし、賛同してくれる人をどんどん巻き込んでいけば良い。
- ・ Bグループでは、大きなイベントをやる前に、「大人版クリーンデー」などの小さなイベントから始めて、そこからつながりを増やそうという話がでていた。
 - ⇒「クリーンデー」と構えなくても、散歩して南大沢の魅力を再発見する会にし、その時に袋とトングを持ってくるくらいの感覚から始めても良いのではないか。
 - ⇒4月のお花見の頃にまずはやってみるのも良いかもしれない。
 - ⇒月に1回連絡協議会がパトロールしている。既に同じようなことをやっていることが多いため、既存の取組と連携を取るのも良いと思う。
- ・ ③人づくり＝担い手づくりだと思うのだが、そちらの取組案はないか。（未来デザイン室）
 - ⇒例えば、活動のお知らせを中学生に作ってもらってみるというのもある。チラシの裏を広告掲載用ページにし、団体の取組などを入れるのに500円でもいただければチラシの作成費に充てられる。
 - ⇒先ほどあった、地域を巡る話だが、その周遊コースは普段散歩している方に企画に入ってもらい、大学生に何かしら仕掛けを考えてもらう等もできるのではないか。
 - ⇒地域の博士に案を出してもらい、博士から教わった中学生がガイドすることも考えられる。
 - ⇒カルテをつくってから動きがないため、活用することがあっても良いのではないか。
 - ⇒カルテをイベント参加者全員に配布したい。市にはどのくらい在庫があるのか。

⇒必要があれば増刷も可能かと思う。(未来デザイン室)

⇒町会でカルテを印刷し予備があるため、必要があれば町会に声をかけて欲しい。

- ・次回も引き続きアクションについて考えていくと思うが、この中で具体的に取組について考えていくものとしては「再発見ツアー」がひとつある。この再発見ツアーの企画作成の段階から中学生に関わってもらうなどすれば、人づくりに繋がっていくと思う。今回の話し合いの様子から、一つの取組が複数の柱に関連するという形になるかもしれない。(エックス都市研究所)

⇒大きなイベントも掲げて良いか。

⇒計画期間は5年であるため、最初に小さいものから始めて、何年かあとに大きいイベントを開催するというのも良い。あるいは、両方進めていけるのであれば、それでも構わない。将来ビジョンの目指すところは2040年だが、具体的な取組としてまずは5年間を目標に進められるよう、考えていただきたい。5年間で実施が難しい場合は、推進計画の改定時に継続して検討するというのも可能である。(未来デザイン室)

⇒大きなイベントは5年後に開催するということか。

⇒2024年度から2029年までの5年間のどこかで開催するという考え方である。(未来デザイン室)

⇒Aグループでは、大きなイベントは祭りのように様々な人を受け入れられるのが良いという意見であった。

⇒夏祭りの運営については、東京都立大学に協力をお願いしたところ断られてしまった。柱のひとつに人づくりもあるため、母体となる組織を作れば、再度、東京都立大学と話しができるチャンスができ、人材確保に繋がる話しができるのではないかと。

⇒今後推進会議が進む中で、様々な思いを持った団体が入ってくる。その思いに対して全て応えることは難しい。同じ思いを共有し、できることは協力していくということではないか。「新しいまとめ役・団体はこういう目的でやっている」ということを明確にし、ブレさせないことが大切。

- ・取組としては小さなところから始めるものと、大きなイベント等を目標としてやっていくものが話として出てきたので、この2つを今後深めていきたい。(エックス都市研究所)

(3) 次回の検討に向けて

第6回推進会議の進め方、自主活動の実施希望について確認をした。

- ・次回は、中間とりまとめを作成する。将来ビジョンが仮置き案「認め合う優しいまち アットホームマイタウン」となっているため、このままで良いという意見や修正をした方がよい等、意見をだしてもらい案としてまとめていきたい。(エックス都市研究所)
- ・先の話にはなるが、来年度のワークショップでは住民の方に現在検討している内容について意見を聞くことになる。住民にどのような意見を聞くかも考えてきて欲しい。例えば、将来ビジョンとアクションプランの柱は、推進会議で決定し、取組について具体的に意見を聞くのか。もしくは、将来ビジョンとアクションプランの柱についても意見を聞き決定するのか。(エックス都市研究所)
- ・アクションプランの見せ方について意見をもらいたい。たたきは事務局で作成するが、こういった形がアクションを実行していくうえで使いやすいか、意見をもらえればと思う。これらが次回の主な議題となる。(エックス都市研究所)
- ・次回までの自主活動については、事前ワークをグループでしていただく形でも構わない。その場合は、市に資料を提出してもらえれば、事務局で印刷して配布する。(エックス都市研究所)

3 情報交換「みんなにシェア・みんなでシェア」

- ・ 2月26日(日)に多文化防災研修を開催する。災害発生時に取り残される人がいないようにしたいという思いから、今回は外国人にフォーカスし、災害時に隣に困っている外国人がいたらどうするか、外国人もグループに加わりコミュニケーションを取りながら行う研修である。ぜひお越しいただきたい。
- ・ 明日、小山内裏公園でニューイヤーコンサートを開催する。プロではなく、アマチュア中心となる。楽器の演奏等、諸々ある。時間があればぜひお越しいただきたい。
- ・ ぼまるのアートワークショップを2月26日(日)に開催する。プロの木工作家の方に来ていただき、時計づくりをする。プロの方の手仕事などを生で見ながら、公園で落ち葉や木の実を拾い、それらを飾り付けしたり、みんなで外に出る時間もつくりたいと考えている。チラシをおいていただける場所があればご協力いただきたい。
- ・ 「地域共生のまちづくり推進フォーラム」を2月25日(土)14~16時 Zoom 配信する。フォーラムの主旨は8050問題や引きこもり、生活困窮など社会問題となっている。きっかけや経緯は様々だが、そういった問題を本人・家族が抱え込んでしまい、孤立し、問題が長期化する。そういったことを地域でどうしたら皆が安心して暮らせるかを考える一つのきっかけとして、支援活動を実際にされている方々のお話しなどを聞きながら考えるきっかけになれば良いと思っている。興味があればぜひ参加していただきたい。(はちまるサポート由木東)
- ・ 1月28日に地域づくりフォーラム「地域の未来をみんなで考える」を開催する。パネルディスカッションのパネラーとして高橋さん、佐藤さん、今泉さんにご参加いただく。基調講演には、東京都立大学の室田先生に出ていただく。ぜひ多くの方に参加をいただきたいと思う。また、地域づくりの紹介動画が完成し、八王子市公式 YouTube で29日より配信開始するので、こちらもぜひご覧いただきたい。(未来デザイン室)

4 閉会

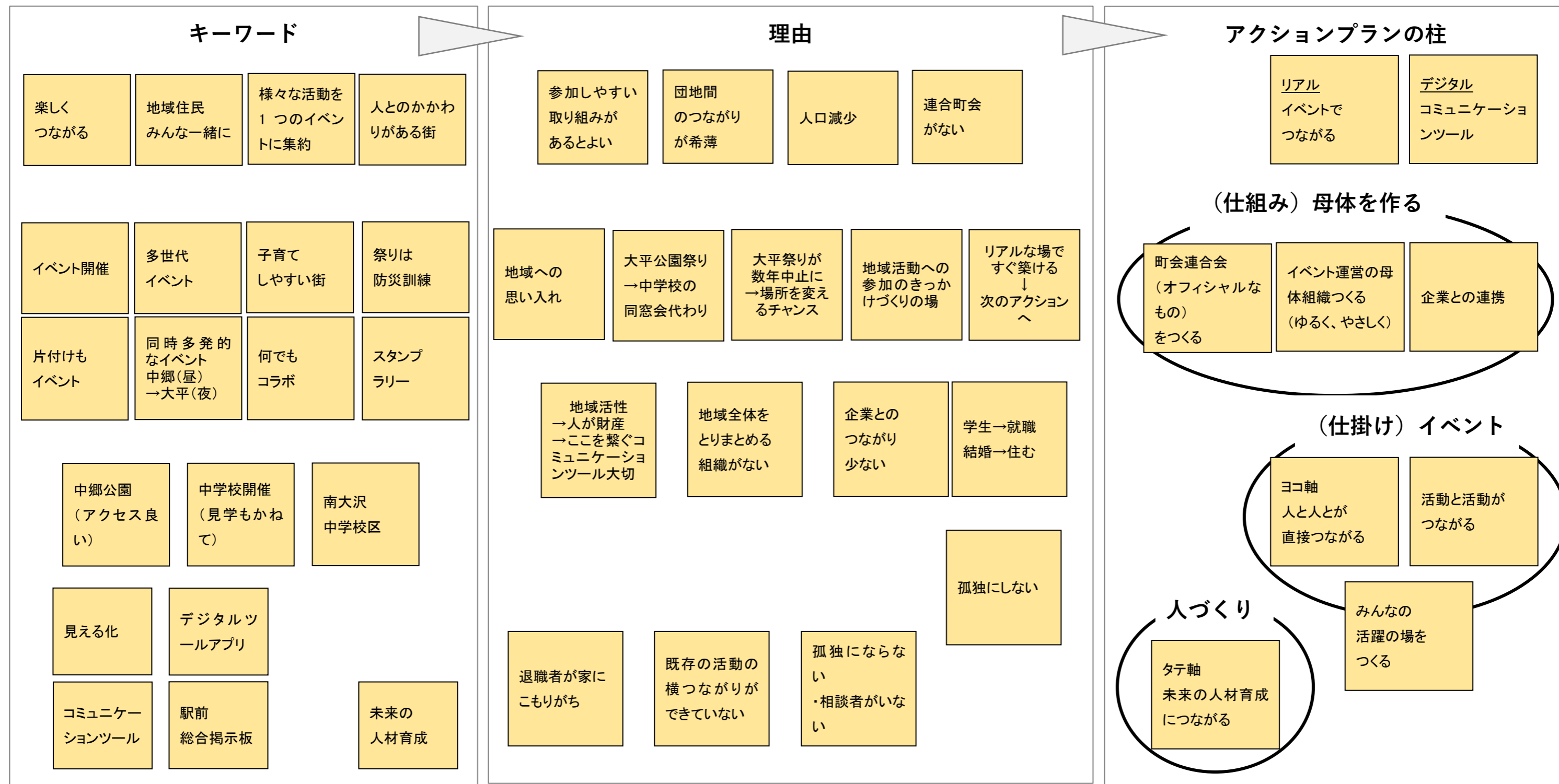
次回の地域づくり推進会議の日程等を確認した。

- ・ 活動一覧への追加・修正があれば、未来デザイン室に申し出てほしい。(未来デザイン室)
- ・ 第6回推進会議は、令和5年(2023年)3月4日(土)13:30~16:00 南大沢中学校 3階家庭科室で実施する。(未来デザイン室)

以上

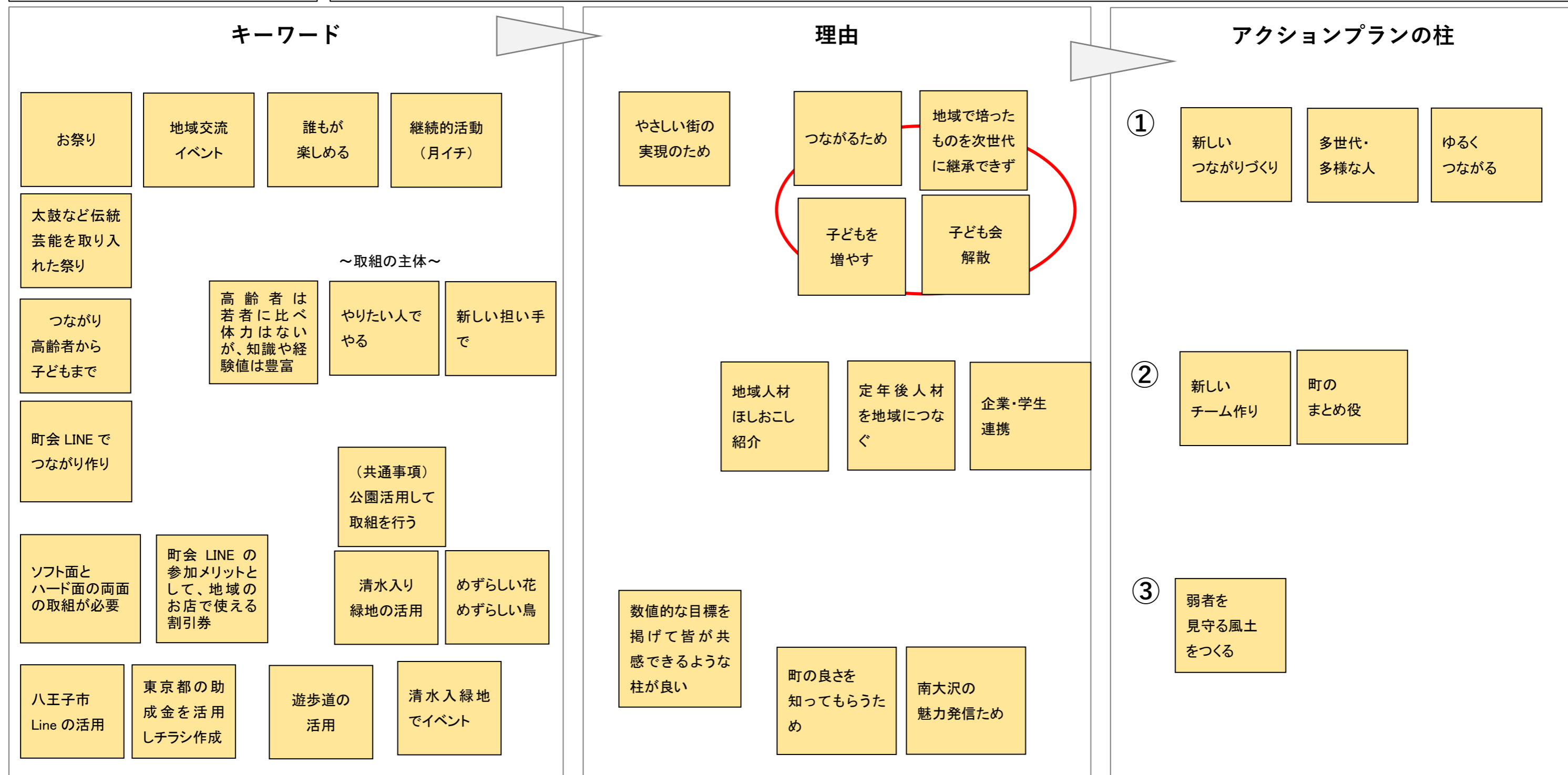
<p>“ありたい姿” 【第3回検討】</p>	<p><仮置き案> 認め合うやさしい街 アットホームマイタウン</p> <p>キーワード：“だれもが”=多世代、多様な人/つながる手法/すでにある活動をつなげる/未来につなげる、継承</p>
----------------------------	--

<p>アクションプランの アイデアキーワード 【第4回検討】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○お祭・イベント（アートなど）を仕掛ける ○リアル・バーチャルでのつながりの拠点の確保（多世代・多文化） ○人材確保（大学との連携） ○運営資金確保（クラウドファンディング）
--	--



<p>“ありたい姿” 【第3回検討】</p>	<p><仮置き案> 認め合うやさしい街 アットホームマイタウン</p> <p>キーワード：“だれもが”＝多世代、多様な人/つながる手法/すでにある活動をつなげる/未来につなげる、継承</p>
----------------------------	--

<p>アクションプランの アイデアキーワード 【第4回検討】</p>	<p>○お祭・イベント（アートなど）を仕掛ける ○リアル・バーチャルでのつながりの拠点の確保（多世代・多文化） ○人材確保（大学との連携） ○運営資金確保（クラウドファンディング）</p>
--	--



【アクションプラン思案シート ～取組～】

<p>“ありたい姿” 【第3回検討】</p>	<p><仮置き案> 認め合うやさしい街 アットホームマイタウン キーワード：“だれもが”＝多世代、多様な人/つながる手法/すでにある活動をつなげる/未来につなげる、継承</p>
<p>アクションプランの アイデアキーワード 【第4回検討】</p>	<p>○お祭・イベント（アートなど）を仕掛ける ○リアル・バーチャルでのつながりの拠点の確保（多世代・多文化） ○人材確保（大学との連携） ○運営資金確保（クラウドファンディング）</p>

